

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-276948

(P2004-276948A)

(43) 公開日 平成16年10月7日(2004.10.7)

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>

B 6 5 D 5/72

B 6 5 D 83/08

F I

B 6 5 D 5/72

B 6 5 D 83/08

A

G

テーマコード (参考)

3 E 0 1 4

3 E 0 6 0

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願2003-69872 (P2003-69872)

(22) 出願日 平成15年3月14日 (2003.3.14)

(71) 出願人 399012549

加藤 勇

茨城県北茨城市中郷町上桜井 1 5 9 3

(72) 発明者 加藤 勇

茨城県北茨城市中郷町上桜井 1 5 9 3

Fターム(参考) 3E014 MC06

3E060 AA03 AB05 BA03 BC04 DA17

EA08 EA14

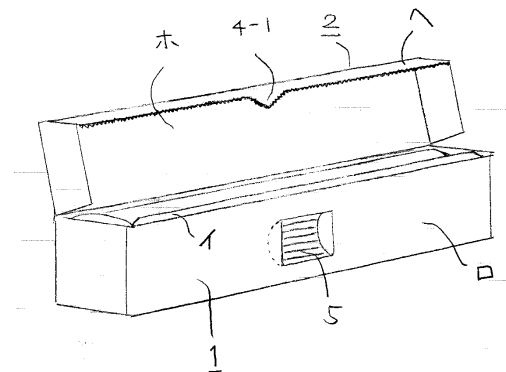
(54) 【発明の名称】 ラップ収納箱

## (57) 【要約】

【課題】ラップの切り離しを容易とし、更には、湿気による張り付きなどに対処したラップの収納箱を提供すること。

【解決手段】箱主体と、この箱主体の上方に開閉自在に設けられた蓋体と、蓋体の先端部に設けられ引き出されたラップを切断する切断部と箱主体の前面板に切断部と交差しつ、且つ、箱主体長手方向の略中央部分に設けられた指用凹所部とを有し、且つ、前記切断部の一部をこの指用凹所部方向に折り曲げるようにラップ収納箱を構成したこと。

【選択図】 図1



**【特許請求の範囲】****【請求項 1】**

箱主体と、この箱主体の上方に、開閉自在に設けられた蓋体と、蓋体の先端部に設けられ、引き出されたラップを切断する切断部と、箱主体の前面板に切断部と交差し、且つ箱主体長手方向の略中央部に設けた指用凹所部とを有し、且つ、前記切断部の一部をこの指用凹所部方向に折り曲げるように構成したラップ収納箱。

**【請求項 2】**

請求項 1 記載のラップ収納箱に於いて  
指用凹所部は開放しているものであるラップ収納箱。

**【請求項 3】**

請求項 1 記載のラップ収納箱に於いて  
箱主体の蓋体の先端に設けられた切断部は中央部から端方向にテーパ状に形成されているものであるラップ収納箱。

**【請求項 4】**

請求項 1 記載のラップ収納箱に於いて  
箱主体の蓋体の先端に設けられた切断部は、前面板自身に鋸歯状の切り刃を形成するか、あるいは金属性の鋸歯状の切り刃を前面板に別部品として所望の取り付け手段によって設けたものであるラップ収納箱。

**【請求項 5】**

箱主体と、この箱主体の上方に、開閉自在に設けられた蓋体と、蓋体の先端部に設けられ、引き出されたラップを切断する切断部とを有し、且つ、前記切断部の一部を箱主体方向に折り曲げるように構成したラップ収納箱。

**【発明の詳細な説明】****【0001】****【発明の属する技術分野】**

本発明はラップ収納箱に属し、更に詳しくは、ラップの切り離しや引き出しが容易なラップ収納箱に関するものである。

**【0002】****【従来の技術】****【特許文献 1】特開平 11 - 366080 号**

食品を容器に入れ冷蔵などにて保存するときや、電子レンジにて加熱調理するときなどに、容器の上面をラップにて覆い、食品の水分蒸発や品質の低下を極力防止するために用いられている。

**【0003】**

ラップは通常収納箱に収納されており、使用時に所望の量だけ収納箱から引き出して使用されるものである。

**【0004】****【発明が解決しようとする課題】**

前記従来技術に於いて、実際の使用時に収納箱前面板に水滴が付着したりすると、ラップは箱前面板に密着状態に張り付いてしまい、次なる使用の取り扱いを困難なものとさせている。

**【0005】**

これらに対処する為、当発明者はラップの引き剥がしを容易にするために前記特許文献 1 記載の発明を提案した。

**【0006】**

この提案によってラップの引き剥がしについては解決されたが、ラップの切断についての検討は充分には行われていない。

**【0007】**

一方、ラップは一部に切れ目が生じると、それを起点として容易に切断できる性質を有しているものである。

10

20

30

40

50

## 【 0 0 0 8 】

本発明は、いわゆるカッティング性を向上することを主たる目的とし、次いで、本発明者が提案している引き剥がし容易性に加え、この性質を利用して更なるカッティング性を向上するラップ収納箱を提供することを目的としてなされたものである。

## 【 0 0 0 9 】

## 【課題を解決するための手段】

前記課題は、箱主体と、この箱主体の上方に、開閉自在に設けられた蓋体と、蓋体の先端部に設けられ、引き出されたラップを切断する切断部とを有し、且つ、前記切断部の一部を箱主体方向に折り曲げるように収納箱を構成すること、あるいは、箱主体と、この箱主体の上方に、開閉自在に設けられた蓋体と、蓋体の先端部に設けられ、引き出されたラップを切断する切断部と、箱主体の前面板に切断部と交差し、且つ箱主体長手方向の略中央部に設けた指用凹所部とを有し、且つ、前記切断部の一部をこの指用凹所部方向に折り曲げるようにラップ収納箱を構成することにて達成される。

10

## 【 0 0 1 0 】

## 【発明の実施の形態】

以下本発明の実施の形態について図を参照して説明する。

## 【 0 0 1 1 】

図は本発明の一実施例を示すもので、図 1 は本発明の一実施形態の収納箱の蓋体を開いた状態の斜面図、図 2 は同じく蓋を閉じた状態の斜面図、図 1 1 は収納箱の展開図である。

## 【 0 0 1 2 】

収納箱は、図 1 1 のように裁断されたやや厚めの紙から構成される。この図で点線は谷折の部分で、図示上で、それぞれ左右の耳部分は糊付けに供される。

20

## 【 0 0 1 3 】

図で口、ハ及びニの部分はラップロール W を収納する箱主体 1 を構成する。

## 【 0 0 1 4 】

ホとヘは蓋体 2 を構成する。符号 3 で示す点線部分が箱主体 1 と蓋体 2 を開閉自在に接続するヒンジとなる。

## 【 0 0 1 5 】

イはラップの巻き戻りや飛び出しを防止する部分である。

## 【 0 0 1 6 】

4 は蓋体 2 の先端部に金属で形成されたカッター 4 で、引き出されたラップを、所望の長さに切断するものである。但し、ヘの紙材が相当硬質の場合は、紙材そのものに鋸状刃を形成し、このカッター 4 を省略することができる。以降、これらの鋸歯状刃等はカッター 4 で総称する。

30

## 【 0 0 1 7 】

図 3 において、口で構成される前面板 6 に押し出しによって形成された指用凹所部 5 で、その大きさは少なくとも人差し指の指先の挿入が可能な寸法とされている。又、その位置は、図 2 に示すように蓋体 2 を閉じた状態で、カッター 4 の略中央部分と交差する位置とする。

## 【 0 0 1 8 】

言い換えれば、この位置は切断されたラップ端面線と交差する位置とも言え、又、この位置は箱主体 1 の長手方向の中央あるいは中央付近である。この位置は掴んだラップの引き出しをスムーズに行える位置である。

40

## 【 0 0 1 9 】

この構成により、指を指用凹所部 5 に容易に挿入することができるので、切断後の前面板 6 にラップが完全に密着したとしても、切断されたラップの端を指で剥離し容易につかむことを可能とする。

## 【 0 0 2 0 】

この指用凹所部 5 は、前面板 6 を手前からの押し出しによって形成してあるので、外気や虫が収納箱に入ることがなく衛生的である。

50

## 【 0 0 2 1 】

又、指用凹所部 5 の底部が指を挿入するときのガイドになって、前記のように、ラップの端部を剥がしスムーズにつかむことが出来、これによってラップの引き出しを容易に行うことが出来る。

## 【 0 0 2 2 】

次に指用凹所部 5 の他の実施形態について説明する、

図 5 は前面板 6 に穴 5 1 を開け、別途紙で構成した覆い部材 5 2 を穴 5 1 の裏面外周に糊付けしたものである。又、外気や虫の侵入が防止されるので衛生的である。

## 【 0 0 2 3 】

図 4 は、指用凹所部 5 の底部を、収納箱の底辺まで切り込み、その裏面に覆い部材 5 2 を接着剤等によって接着したものである。この構成は、この切り込みが収納箱の底部に達しているので切断されたラップの端をつかむことが更に容易である。又、前記と同様、外気や虫の侵入が防止されるので衛生的である。 10

## 【 0 0 2 4 】

図 6 は、前面板 6 に穴を開け、前記紙材に代えて発砲スチロールで形成した覆い部材 5 2 を穴の裏面外周に貼着したものである。

## 【 0 0 2 5 】

図 7 は前面板 6 に 2 本の切込みを開け、2 本の切り込み間を裏面に押し出し形成し、覆い部材 5 2 を形成したものである。この構成は前記図 4 乃至図 6 に示した構成に比して製造が容易な反面、外気の流入がフリーとなり、又、虫やゴミの侵入を否定できない。 20

## 【 0 0 2 6 】

図 8 は、前記同様前面板 6 に 2 本の切込みを開け、2 本の切り込み間部分を裏面に押し出し、一方を図に示すように切断して形成したものである。この構成によれば、図 7 に比較して、指用凹所部 5 を深く形成することが出来る効果がある。

## 【 0 0 2 7 】

前述のように、指用凹所部 5 は種々の形態が考えられる。

## 【 0 0 2 8 】

次に、蓋体 2 先端部に設けられる切断部となるカッター 4 の構成を説明する。

## 【 0 0 2 9 】

前記蓋体 2 の先端部に設けられるカッター 4 は、元来、収納箱とは別途に構成され、後に蓋体の先端部に取り付けられるものである。 30

## 【 0 0 3 0 】

次に、カッター 4 自身の形状について説明する。

## 【 0 0 3 1 】

カッター 4 は、主に金属板に鋸歯を形成して構成されるが、一部には箱自身に鋸歯が構成されたものもある。

## 【 0 0 3 2 】

図 9 は、カッター 4 の略中央部の一定部分に折り曲げ部を設け、この折り曲げ部を、先端に丸みを有した半円形状 4 - 1 に構成した状態を示したものである。

## 【 0 0 3 3 】

この半円形状 4 - 1 は、箱主体 1 の前面板 6 に設けられた、指用凹所部 5 に入り込む形状となされている。 40

## 【 0 0 3 4 】

図 10 は、他の例を示すもので、この折り曲げ部を、前記の指用凹所部 5 方向に向け先端を鋭角 4 - 2 に構成したものである。

## 【 0 0 3 5 】

前記構成のうち、前者の半円形状 4 - 1 は全体的にゆるいカーブを描いているので、使用時において指等の素手への損傷を招くことが防止され、安全性の高いものとなっている。

## 【 0 0 3 6 】

一方、後者の先端部を鋭利に形成した方が、ラップ面に切り離しの起点を設ける点では有 50

利であるが、使用時に鋭利部分による指等の素手への損傷等が予想され、安全性においては不利である。

【 0 0 3 7 】

前記構成で当発明者がカッティング性について検証したところ、両者に実用上の特段の相違は認められず、安全性から前者の構成が有利であることが確認された。

【 0 0 3 8 】

尚、前述以外の指用凹所部 5 に入り込む折り曲げ部の形状は、本発明の対象とするものである。

【 0 0 3 9 】

前記構成によれば、カッター 4 に折り曲げ部を設けたので、この折り曲げ部によってラップに切り込みが施され、この部分から端方向へ切込みが走り、結果としてラップが容易に切り離されるので、ラッピングが向上する。 10

【 0 0 4 0 】

更に、前記に加え、指用凹所部 5 との作用と相俟ってラップの引き剥がしを容易にしているので、更にラッピングを容易に行うことができるものである。

【 0 0 4 1 】

尚、前記一実施形態のほかに応用形態や変形例も考えられるが、これらも本発明の技術的範囲内に入るものである。

【 0 0 4 2 】

【発明の効果】

20

以上述べたように本発明は、折り曲げ部によってカッティング性を向上することができ、更に指用凹所部の作用と相俟って引き剥がしが容易になり、更なるカッティング性を向上したラップ収納箱を提供することができたものである。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の一実施形態を示すもので、蓋体を開いた状態の斜視図。

【図 2】同じく蓋体を閉じた状態の斜視図。

【図 3】同じく指用凹所部付近の断面図。

【図 4】同じく他の実施形態の指用凹所部付近の断面図。

【図 5】同じく他の実施形態の指用凹所部付近の断面図。

【図 6】同じく他の実施形態の指用凹所部付近の断面図。

30

【図 7】同じく他の実施形態の指用凹所部付近の断面図。

【図 8】同じく他の実施形態の指用凹所部付近の断面図。

【図 9】同じくカッターに一実施例の形状構成を施した状態の単体平面図。

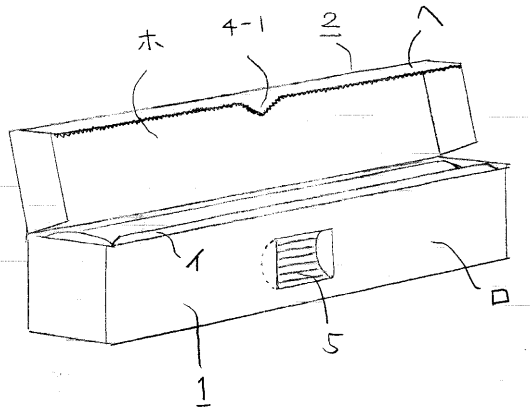
【図 10】同じくカッターに他の実施例の形状構成を施した状態の単体平面図。

【図 11】本発明の一実施形態を示すもので、収納箱の組み立て前の展開図。

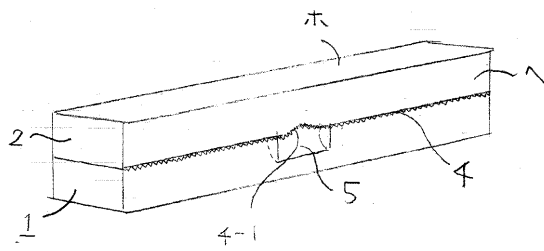
【符号の説明】

1 - - - - - 箱主体、 2 - - - - - 蓋体、 3 - - - - - ヒンジ、 4 - - - - - カ  
ッター  
5 - - - - - 指用凹所部、 6 - - - - - 前面版、 5 1 - - - - - 穴  
5 2 - - - - - 覆い部材、 4 - - - - - 1 半円形状 40

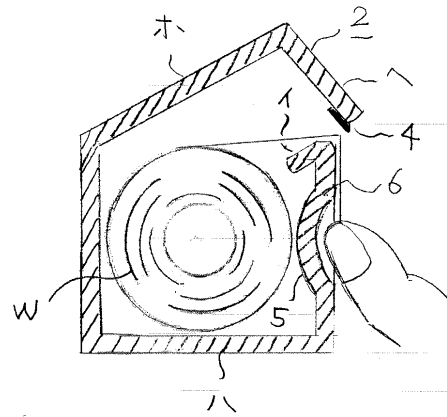
【図 1】



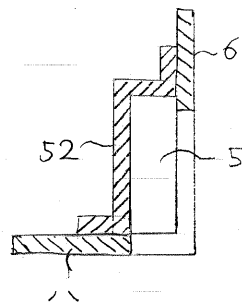
【図 2】



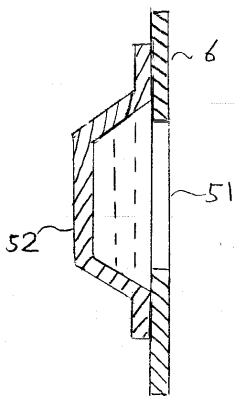
【図 3】



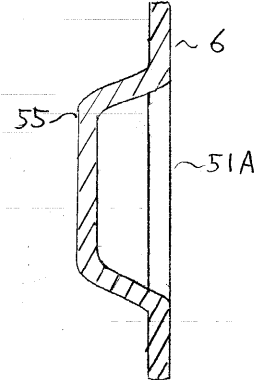
【図 4】



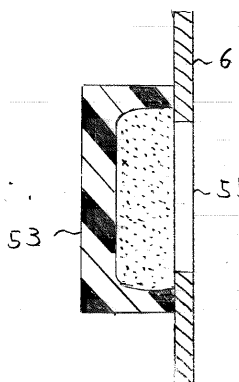
【図 5】



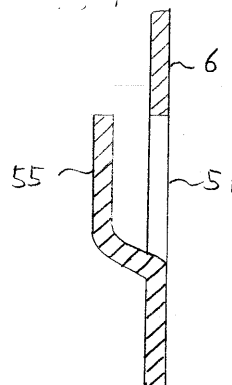
【図 7】



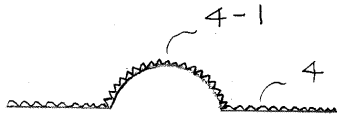
【図 6】



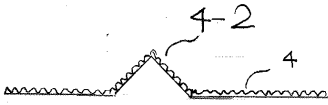
【図 8】



【図 9】



【図 10】



【図 11】

